

社会構築論コース

Social Design and Innovation Course

本資料の概要

1. コースの理念・アプローチ方法
2. カリキュラムの特色・履修イメージ
3. スタッフとコース室の紹介
4. 入試に関して

1. コースの理念

地球的課題や日本社会の抱える諸問題を批判的に分析し、それらを解決する**新たな知を創出**することを目指します。紛争の解決、貧困・格差の解消、生物多様性の保全、ジェンダー平等の達成など、現在、紛争の解決、貧困・格差の解消、生物多様性の保全、ジェンダー平等の達成など、**グローバルな課題**が数多く存在します。さらに、グローバルな課題は、国家や地域などのローカルにおいても複雑な課題を引き起こします。逆に、**ローカルの課題**がグローバルの課題に発展することもあります。したがって、現代の世界においてはグローバル・ローカルのどちらであっても、単独で課題を取り出して解決することはできません。

そこで、社会構築論コースでは、これらの課題を少しでも改善・解決するために、それらにつながる**社会構造**や**歴史的背景**を掘り下げ、理解し、文化的視点を保ちながら、**実践の知**をベースに持続可能な社会を構想していきます。

また、社会構築論コースは、人種やエスニシティ、社会階層、ジェンダー、セクシュアリティ、障がいの有無などの多様性を前提とし、**持続可能な社会をデザイン・実践・共創**するための知識・経験・実行力を持つ人物の育成を目指します。そのために、既存の学術的な方法論や問題設定に限らず、領域横断的かつ学融合的なアプローチを採用し、学内外・国内外における様々なステークホルダーとともに実践的な取り組みを進めます。

そして、社会構築論コースは、持続可能な社会をデザイン・実践・共創するための知識・経験・実行力を身につけること、そして社会課題に高い関心を持ち、これからの社会構築への参

画を目指される方、すでに社会実践の場でキャリアを積まれている方、国際的な NGO や組織で活躍することを視野に入れられている方などが、新たな学びの場とされることを想定しています。

アプローチ方法

進行している課題を把握・分析し、対応する力を養うため、次の三つのアプローチを身につけることができるプログラムを構成します。

「クリティカル・リーディング」：史資料・文献の調査および批判的な読解・分析

「フィールド・リサーチ」：参与観察、エスノグラフィックリサーチ、アクションリサーチ、インタビュー調査など質的研究

「パブリック・ヒストリー」：アカデミックな歴史研究者と民間のコミュニティ・市民との協働による記憶や記録の体系化と継承

2. カリキュラムの特色

グローバルそしてローカルな課題の多くは密接に関連しあっており、その課題を解決するには国内外でのフィールドワークをベースにした**実証的な観察と考察、領域横断的な研究**が必要です。また持続可能な社会を目指すには、単独ではなくさまざまな立場や考えの人や組織との連携が欠かせません。よって、「社会構築論コース」では、研究指導において**複数分野の講師陣が連携**してあたります。これにより、隣接する領域のアクターとも積極的に協働しながら、多角的に研究を進め、国際社会や地域社会で貢献する即戦力を養います。また、**学際的なアプローチかつ実践プロジェクト型の学び**のスタイルから専門性を培っていきます。

具体的には、**複数教員が出席する合同研究指導授業**を年間に複数回設けます。これによって、異なる専門的な視点を含んだ討議やフィードバックが可能となり、学生たちの研究の幅を広げ、より深い考察に導くことが可能になります。同時に、学生と教員間の関係性が多様になり、柔軟で風通しの良い空間が作られます。また本コースが提供する講義はすべて複数

教員が担当しており、学生たちは**領域横断的かつ学融合的なアプローチ**でそれぞれの課題を研究します。

コース設置の科目内容

- ・社会構築論専門実習 1～4（フィールドワーク方法論¹、クリティカル・リーディング、フィールドワーク、パブリック・ヒストリー）
- ・社会構築論専門講義 1～4（パブリック・ディプロマシー論、クィアサステナビリティ論、パブリック・ヒストリー構築、実践ローカルスタディーズ）
- ・社会構築論特論 1～2²

修了所定単位数 32 単位（うち、コース設置科目必修単位 16 単位）

- ・「社会構築論専門講義」 1～4 から選択必修 4 単位以上
- ・「社会構築論専門実習」 1～4 から選択必修 4 単位以上

を必修とする。

*履修に際しては、指導教員の合意を必要とする。

*専門講義は 2 年次にも複数担当科目の履修を推奨し、特論は 1 年次のみ履修可能とする

履修イメージ

M1 春	M1 秋
研究指導 #-1	研究指導 #-2
演習 #-1	演習 #-2
専門実習 1 and/or 2	専門実習 3 and/or 4
専門講義 1 and/or 2	専門講義 3 and/or 4
選択	選択

M1：自コース必修 12 単位（演習 4 単位＋専門実習 4 単位＋専門講義 4 単位）

¹ 学部設置科目「社会構築論系共通演習（フィールドワーク論）」と合併

² 学部設置科目「社会構築論系総合演習 1～2」とそれぞれ合併

その他、自コース選択科目＋他コース設置科目などで 8 単位

M1 合計取得単位数 20 単位

M2 春	M2 秋
研究指導 #-1	研究指導 #-2
演習 #-1	演習 #-2
選択	選択

M2：自コース必修 演習 4 単位

その他、自コース選択科目＋他コース設置科目などで 8 単位

M2 合計取得単位数 12 単位

3. スタッフとコース室の紹介

研究指導担当教員

金 敬黙	平和研究、トランスナショナル研究
豊田 真穂	ジェンダー史、アメリカ研究
森山 至貴	セクシュアリティ研究、クィア・スタディーズ
高野 孝子	環境と開発、サステナビリティ研究
小松 寛	国際関係論、民族的マイノリティと国家

講義担当教員

田畑 幸嗣	文化遺産論、考古学
西城戸 誠	エネルギー社会論、「環境と社会」学
藤野 裕子	歴史学、ジェンダー・セクシュアリティ史
箕曲 在弘	国際協力論、文化人類学

社会構築論コース室紹介

※助手・コース室は、文化構想学部社会構築論系と同じ

戸山キャンパス 33 号館 9 階 904 号室

問い合わせ先：社会構築論系助手 shakou.web@gmail.com

4. 入試に関して

※出願手続に関するお問い合わせは、以下にご連絡ください

早稲田大学文学学術院事務所（ toyama-adm@list.waseda.jp ）

●推薦入試（7月）

2026 年度修士課程（推薦）試験日程

【出願期間】 2025 年 6月2日（月）～11日（水）

【口述試験】 2025 年 7月 12 日（土）

【合格者発表】 2025 年 7月 17 日（木）

●一般入試（9月）日程は未発表（2025 年 6 月上旬公開予定）

最新の入学試験情報については以下の[文学研究科の入学試験情報ページ](#)に更新されます：

<https://www.waseda.jp/flas/glas/applicants/admission/>

試験科目

【第 1 次試験】①一般外国語 ②専門科目※

【第 2 次試験】口述試験

※専門科目「社会構築論」の過去問題は公開予定）

注）参考情報として、昨年に実施した 2025 年度修士課程（一般入試）の日程を以下に掲載します。

【出願期間】

●主に日本国外の大学を卒業した・する場合：2024 年 7 月 1 日（月）～7 月 15 日（月）

●主に日本の大学を卒業した・する場合：2024 年 7 月 16 日（火）～7 月 30 日（火）

【第 1 次試験日】 2024 年 9 月 19 日（木）

【第 1 次試験合格者発表日】 2024 年 9 月 26 日（木）

【第 2 次試験日】 2024 年 9 月 29 日（日） Web 会議システム（Zoom）

【最終合格者発表日】 2024 年 10 月 3 日（木）

●論文特別選抜入試 日程は未発表（2025 年 7 月下旬公開予定）

最新の入学試験情報については以下の[文学研究科の入学試験情報ページ](https://www.waseda.jp/flas/glas/applicants/admission/)に更新されます：

<https://www.waseda.jp/flas/glas/applicants/admission/>

試験科目

【第 1 次試験】 書類審査（出願書類による審査）

【第 2 次試験】 口述試験

注）参考情報として、昨年に実施した 2025 年度修士課程（論文特別選抜入試）の日程を以下に掲載します。

【出願期間】 2024 年 12 月 2 日～12 月 13 日

【第 1 次試験合格者発表日】 2025 年 1 月 16 日（木）

【第 2 次試験日】 2025 年 1 月 30 日（木） Web 会議システム（Zoom）

【最終合格者発表日】 2025 年 1 月 31 日（金）

5. その他

問い合わせ先

早稲田大学文化構想学部・文学研究科 社会構築論系・コース

E-mail : shakou.web@gmail.com

Tel : 03-5286-3559（直通）

戸山キャンパス 33 号館 9 階 904 号室

想定される卒業後の進路

財団や社団を含む国内外の NGO・NPO

企業のサステナビリティ・ダイバーシティ推進・社会貢献・企画戦略部門

メディア・報道機関、国内外行政機関、大学・研究機関など